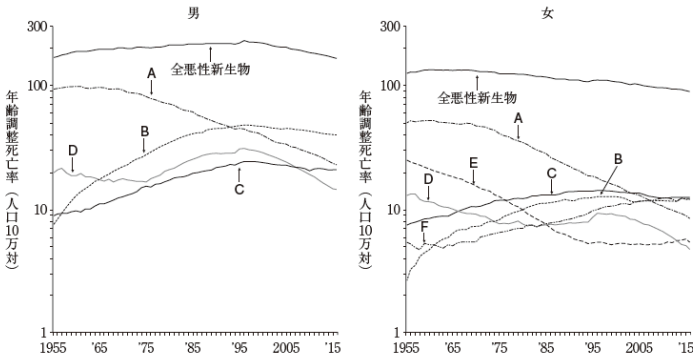


# 103-126

## 問題文



1. Aの年齢調整死亡率が低下し続けている要因として、がんの早期発見や食生活の変化が考えられる。
2. Bの年齢調整死亡率が1990年代後半まで上昇した主な要因として、飲酒やウイルス感染の関与が考えられる。
3. Cの年齢調整死亡率が1990年代後半まで上昇した要因の1つとして、食事内容の欧米化が考えられる。
4. Eの年齢調整死亡率の低下の主な要因として、ワクチンの定期接種によるEの罹患率の低下が考えられる。
5. 近年、全悪性新生物の年齢調整死亡率が男女とも低下しているが、粗死亡率も同様に低下している。

## 解答

1, 3

## 解説

選択肢 1 は、正しい記述です。

減少傾向とあり、かつ、男女ともに かつての圧倒的 1 位なので A は 胃がんと判断します。検診の普及による 早期発見・早期治療や 塩分を控える食生活の浸透などが 理由と考えられています。

選択肢 2 ですが、Bは

2015 年時点での 男性 1 位なので、肺がん と判断します。記述は飲酒、ウイルスとあるので、肝がんについての記述と考えられます。よって、選択肢 2 は誤りです。

選択肢 3 は、正しい記述です。

C は、増加傾向にある点から大腸がん と判断します。

選択肢 4 ですが

がんの話なので、ワクチンの定期接種による罹患率の低下 というのは明らかに誤りです。よって、選択肢 4 は誤りです。

選択肢 5 ですが

がんによる粗死亡率、つまり 単純に年間 10 万人あたり何人亡くなるか は 増加し続けています。これは高齢化が背景にあります。よって、選択肢 5 は誤りです。

以上より、正解は 1,3 です。